

〈資料〉

2013年度 さくらキャンパス学生実態調査報告

学生部長 濱野 光之
 学生部委員会委員長
 神原 直幸
 学生生活調査委員会
 委員長 神原 直幸
 委員 涌井佐和子
 学生課 白石 知己
 学生課 高橋 佐江

A report on research of student satisfaction at Juntendo University,
 School of Health and Sports Science, in 2013

1. 2013年度調査の目的

本調査は、学校法人順天堂の4学部を設置された学生部委員会と学生課の協働により計画・実施されたものである。スポーツ健康科学部(以下、本学部)では、2002年度から『学生生活満足度調査』として毎年実施されてきたが、本年度より4学部全体で『学生生活実態調査』として実施されることとなった。調査の目的は以下の通りである。

- ① 本学学生の学園生活の実態を把握すると同時に学生生活に対する満足度の現状を把握し、学部ごとに現在の問題点の改善・解決に向けた基礎資料を得る。
- ② 継続的かつ時系列的な学生生活への展望を明らかにする。

本稿ではスポーツ健康科学部学生の結果について報告する。なお、昨年度の報告では年度毎の比較が実施されているため、本年度は学年ごとの比較を実施することとする。

2. 調査の対象と方法

全キャンパス共通質問項目に加え本学部の独自項目を加え実施した。そのため、昨年度までと比較し

て質問内容、形式に若干の変更がなされた。スポーツ健康科学部では1313人を対象とし、質問紙調査を実施した。調査期間は11/13~11/20であった。調査項目は共通項目6側面31問、本学部独自項目5側面17問により構成された(表1参照)。本学部の回収率は全体で77%であり(1年生91%, 2年生71%, 3年生80%, 4年生66%), 法人全体の中で医学部に次いで低かった(表2参照)。

3. 集計結果

3.1 本学入学について

志望順位, 認知媒体, 受験理由, 入学時の期待との比較の項目については, 一年生のみを対象に実施された。2013年度の1年生については, 本学の志望順位は第一志望が72%, 第二志望が17.3%, 第三志望が7.6%であった。本学認知媒体について進路指導者(31%)やホームページ(27%), 出身校の先輩(24%)の順であり法人全体の傾向と比較して人的な媒体が多かった。受験理由については、『将来の進路に有利』(52%), 『クラブ活動が充実』(39%)が相対的に高かった。半年あまりが経過した調査時点での『入学前の期待との比較』については77%が『(まあ)期待通り』と, 比較的高い満足度を示して

表1 調査項目の概要

区分	側面	内容
全学共通項目	基本属性 (全員)	学部, 学科, 学年, 性別
	本学入学について (1年生のみ)	本学認知媒体, 本学受験理由, 本学志望順位, 期待との比較, 本学に対する不満
	学生生活・クラブについて (全員)	クラブ活動等への参加, 自治会行事への参加, 悩みの内容, 悩み相談相手, 教員サポートへの満足
	生活について (全員)	食事摂食状況, 睡眠時間, 通学時間, 生活費の額, 収入源, アルバイト頻度, アルバイト収入額
	学習について (全員)	授業の予習 (実施の有無, 時間, 教材, 場所), 授業の復習 (実施の有無, 時間, 教材, 場所), 試験勉強 (開始時期, 教材, 場所)
	全体的な大学生活イメージ (全員)	学生生活の充実度, 後輩への本学推奨意向, 本学非推奨理由
学部独自項目	基本属性 (全員)	受験区分, 所属クラブ
	本学入学について (全員)	現在の大学満足度, 学科志望順位, 入学時の満足度
	授業について (全員)	カリキュラム・時間割, 形式・内容, 教員の授業態度
	生活について (全員)	寮生活満足度, 立地に対する満足度, 就職サポートへの満足度, 事務職員への満足度, ハラスメントの有無, 生活費への満足度
	運動部活動について (全員)	施設・設備, 所属クラブ, クラブ指導者

いるが, 23%が『期待外れ』と回答しており, その主たる理由は雰囲気41%と教育内容41%であった (共に期待外れと回答した学生に占める比率)。特に本学の志望順位が第三志望以下の学生 (32名) の半数以上が『期待外れ』と回答している。

入学を決めたときおよび, 現在の満足度については全学年を対象とした項目である。入学を決めたときの満足度について『(やや) 満足』と回答した比率は全体で88%であり, 1年生と4年生の満足度が共に90%を超えていた。一方, 2年生の満足度は83%に留まった。1年生の満足度も90%とかなり高かった。一方, 『(やや) 満足』の回答をより詳細に見ると, 入学を決めたときより, 現在の方が全ての学年で満足の程度が減少しており, 『満足』から『やや』への移行が認められる。前述の入学前の期待との比較より満足度が10%以上高いことを併せて考えると, 『不満』と感じるほどの要素は少ないものの, 『満足』を感じるほどの要素も多くないということになる。入学を決めたときに学生が何を期待しているのかを明らかにし, 応えられているものとそうでないもの, 応えられるか否かについて検討していく必要がある。

3.2 学生生活について

学生生活の充実度について『(やや) 充実』の回答が全体で87%であった。学年別に比較すると, 3, 4年生の比率は高いものの, 2年生の比率が低い。学生生活における悩みについて, 学部全体では『進

表2 在籍者数と回収数

学 年	医 学 部			スポーツ健康科学部			医療看護学部			保健看護学部		
	学生数	回答数	回答率	学生数	回答数	回答率	学生数	回答数	回答率	学生数	回答数	回答率
1 年	128	125	97.7%	330	301	91.2%	205	185	90.2%	123	123	100.0%
2 年	120	120	100.0%	328	233	71.0%	200	142	71.0%	123	120	97.6%
3 年	124	124	100.0%	327	262	80.1%	199	117	58.8%	119	109	91.6%
4 年	106	31	29.2%	328	215	65.5%	194	145	74.7%	115	106	92.2%
5 年	115	33	28.7%									
6 年	94	92	97.9%									
学部全体	687	525	75.6%	1313	1011	77.0%	798	589	78.0%	480	458	95.3%

表3 学年ごとの悩みの内容

	学習上 のこと	健康上 のこと	対人関係 のこと	進路 のこと	経済上 の問題	クラブ 活動	その他	未回答等
1 年	34.2%	17.6%	23.6%	41.9%	19.6%	41.2%	4.0%	4.0%
2 年	29.6%	15.9%	27.0%	60.5%	16.3%	36.9%	1.3%	4.7%
3 年	19.8%	5.3%	14.1%	78.6%	12.6%	31.7%	1.9%	3.1%
4 年	21.4%	10.2%	14.4%	57.2%	10.2%	22.3%	7.9%	7.0%
全 体	26.3%	12.3%	19.8%	59.6%	14.7%	33.0%	3.8%	4.7%

路』(60%)、『クラブ活動』(33%)、『学習』(26%)の順であった(表3参照)。学年別の傾向を見ると、ほとんどの項目については学年が上がるにつれて選択率が減少する中、『進路』については3年生までは増加し、4年生は減少している。本学部のキャリア教育では、2年生から進路について考え始めるよう教育しているが、2年生で『進路』の悩みが急増するという結果は、教育の成果として好意的に捉えるべきであろう。調査時点では4年生の過半数が就職先の内定を得ているが、この時期の4年生の過半数が『進路』について悩んでいるという結果は、内定先に対して十分に満足していない可能性もある。悩みを相談する際の相手については、『友人』(87%)、『家族』(46%)、『先輩』(36%)の順であった。学生の主たる悩みの内容が『進路』、『クラブ活動』、『学習』と、教員がアドバイス可能なものであるのに対し、相談相手としての『教員』は2年生まで2%、3年生以上で12~18%に留まっている。このことから、2年生までのクラス担任制度がほとんど機能しておらず、ゼミ担任制度も必ずしも十分機能していないと考えられる。その一方で教員サポートに対する満足について『(やや)満足』の回答が74%と比較的高かった。しかし2年生の満足度は58%と低くなっている。ゼミに入る前のこの時期の学生に対する教員のサポートが課題であろう。

3.3 学習活動について

授業の形式や内容についての全体的満足度については、『(やや)満足』の回答が全体で76%であった。学年別に見て行くと、2年生の満足度が69%と極め

表4 授業内容についての全体的満足度

	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 年	15.8%	63.5%	17.2%	3.5%
2 年	11.3%	57.5%	26.4%	4.7%
3 年	11.7%	66.4%	19.0%	2.8%
4 年	19.6%	55.9%	21.6%	2.9%
全 体	14.6%	61.3%	20.7%	3.5%

て低かった(表4参照)。満足度が低かった原因として、調査では時間割と教員の態度について尋ねているが、教員の姿勢や態度については全体で80%が『(やや)満足』と回答しており、全体的満足度を下げた原因としては考えにくい。一方、時間割についての満足度が全体で74%の満足度に留まり、特に2年生の満足度は67%と最も低かった。特に2年生についての時間割を再度検討する必要がある。

本年度の調査では、学生の予習・復習について尋ねているが、一部の科目についてのみの実施者を含めても予習の実施率は34%、復習の実施者は37%に留まった。大学生の不勉強が問題とされたことにより、次年度のシラバスにおいて全ての講義科目での予習・復習が盛り込まれることになっている。次年度の予習・復習実施率の増加が期待される。実施者のほとんどが自宅での実施を挙げており、図書館の利用率は全体で29%と低い状況にある。多くの学生が運動部活動を実施している本学部では、授業の空き時間は重要な学習時間と言える。したがってそうした時間に学習ができるような環境の整備も必要と

表5 部活・同好会への全体的満足度

	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 年	37.5%	44.4%	14.9%	3.1%
2 年	32.8%	44.1%	20.0%	3.1%
3 年	33.5%	52.7%	11.2%	2.7%
4 年	52.5%	34.6%	11.1%	1.9%
全 体	38.1%	44.7%	14.4%	2.7%

思われる。

3.4 クラブ活動・自治会活動について

クラブ活動等への参加については、一年生の92%、学部全体でも89%が参加しており、参加者の83%が全体的に見て『(やや)満足』と回答している(表5参照)。クラブ活動等に対する満足度を学年別で比較すると、3,4年生がやや高く(87%)、2年生が最も低かった(77%)。クラブ活動指導者に対する『(やや)満足』の回答も全体で76%と、クラブ活動に対する全体的満足度より低くなっていることから、指導者に対する評価が活動全体の満足度を下げている可能性が示唆された。一方、自治会行事への参加については、全体で『(やや)積極的』との回答は45%と低かった。1年生の回答率が55%であったのに対し、3,4年生は、40%程度と極めて低かったことは、本学部では寮祭以外の自治会活動が十分でないことを示している。

3.5 日常生活について

1年生の生活の場である啓心寮は教育のための施設として位置づけられているが、寮について『(やや)満足』と回答したものは全体で76%であった(表6参照)。特にこれまでも満足度が低かった2年生は30%が不満を感じている。大学生活全体の満足度を高めるためにも、不満の原因となる要因を明確にし、改善していく必要がある。また、さまざまな側面から学生生活をサポートする大学事務に対して『(やや)満足』の回答は全体で61%とかなり低くなっている(表7参照)。学生のために厳しく接する必要がある場合も当然存在するが、事務の対応は大学の雰囲気と直結することから再度、点検して

表6 寮生活についての満足度

	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 年	31.9%	43.5%	18.9%	5.6%
2 年	34.7%	35.7%	21.1%	8.5%
3 年	32.0%	47.0%	13.4%	7.7%
4 年	40.9%	39.4%	15.3%	4.4%
全 体	34.5%	41.8%	17.2%	6.5%

表7 大学事務業務に対する満足度

	満 足	やや満足	やや不満	不 満
1 年	17.5%	54.4%	23.2%	4.9%
2 年	11.8%	35.8%	35.8%	16.5%
3 年	12.6%	53.8%	23.9%	9.7%
4 年	15.7%	35.3%	30.9%	18.1%
全 体	14.6%	46.0%	27.8%	11.6%

いく必要がある。最後に、ハラスメントについてである。ハラスメントを受けた経験を尋ねたところ、全体で16%の学生が『(少し)あった』と回答した。ハラスメントは、学習や運動部活動への意欲低下の原因となり、現在の大学生生活満足度とも有意な相関($r = -.15$)が認められるように大学に対する評価を下げる原因ともなる。本調査とは別に同時期に実施された運動部やゼミの指導者による体罰調査では3%程度であったことから、指導者以外からのハラスメント、体罰以外のハラスメントについて、改善に向けた方策が必要とされよう。

4. 総 括

目的の項で述べたように、2002年度から毎年実施されてきた『学生生活満足度調査』は、本年度より4学部全体で『学生生活実態調査』として実施されることとなった。それに伴いより広い範囲に亘る質問となった。限られた紙面での本報告では、調査結果の全てを示すことはできないが、可能な限り詳細に報告したつもりである。以下、これまでの報告をまとめ、総括としたい。

まずは本年度から採用されたJ-Passについてである。こうした調査においてもJ-Passを利用した方が効率的なデータ収集が可能であることは言うまでもない。しかし本学部では授業やゼミを活用し質問紙を配布・回収せざるを得なかった。これは学生のJ-Pass利用率が低く、十分な数の回答が得られないと判断したためである。他学部では、J-Passを利用した調査を実施しており、本学部より高い回収率を得ていることから、次年度以降、教員と事務が一体となって習慣づけを図っていかなければならない。

最後に、本学部は高い期待を持った学生が集まっているが、十分に答えられておらず、やや満足という程度に落ち着いている。後輩に推奨するかについても、83.5%（1年：85.9%，2年75.8%，3年：84.7%，4年：91.0%）と、かなり高いとは言え、まだ改善の余地がある。喫緊の課題として、多くの項目で見られたように2年生の満足度が相対的に低いことから、ゼミに配分される前の時期の学生について、授業、学習環境、クラブ活動、事務のあらゆる面での再点検が必要であろう。